



伊良波 朝義さん(41)

(有)義空間設計工房・代表取締役 一級建築士

「義」の心で社会に貢献

地域に根ざした家造りを提案



プロフィール

いらは ともよし

1967年、那覇市生まれ。1990年、琉球大学工学部建設工学科卒業後、(株)内井昭蔵建築設計事務所に入社。1997年、(有)義空間設計工房設立、代表取締役に就任。2004年、(社)沖縄県建築士会首里支部副支部長就任。2007年、NPO法人首里まちづくり研究会事務局長に就任。

一戸建てや集合住宅をはじめ、商業・公共施設の設計を行う一級建築士事務所・(有)義空間設計工房。同社の代表取締役を務めるのが、一級建築士の伊良波朝義さん。

物づくりが好きで「人に夢を与える仕事がしたい」と考えていたこともあり、大学は建築系の学部に進学。「3年次の夏休みに東京の知人宅に滞在したとき、建築家・内井昭蔵先生が設計した世田谷美術館を見学したんです。『なんて穏やかで、居心地のいい建物なんだろう』と感銘しました。その体験は今も設計する上で基礎になっています。そして内井先生がそのような建築をモットーとされていることを知り、『先生の下で働きたい』と思うようになりました」と振り返る。

その後、浦添市美術館の設計で沖縄入りしていた内井氏の現地事務所を訪ね、実習生として、業務を手伝う。積極的な姿勢が認められ入社、6年間経験を積んだ。1997年に帰沖後、自身の設計事務所を設立した。

住宅設計で重視する点について「伝統的なウチナーヤーには、影をつくって涼風を室内に招く雨端や、庭で公私の空間を緩やかにつなぐ空間構成など、地域に根ざした快適な家造りのヒントが数多くあります。それらに加え、敷地の状況や施主のライフスタイル、周囲との調和を踏まえ、住まいとしてどう形にするかを常に考えています」

と、きりっとした表情で答える。

また、家が住む人に与える影響の大きさを強く実感している。「隣や下階の音が気になるアパート暮らしで、親に注意されて無口になってしまった施主のお子さんが、建築後に家を訪ねたとき、笑顔でわたしの方に走り寄ってきたんです。伸び伸びとした姿を見て、うれしくて涙が出そうになりました」。

建築士の仕事以外にも、NPO法人首里まちづくり研究会の事務局長として、昨年109年ぶりに復興した綾門大綱引きの開催や、首里城周辺に数多くある未指定の文化財の案内板を設置する計画など、ソフト・ハード両面から、住民自ら愛着が持てるまちづくりをサポートしている。

社名の「義」は、条理や正しい道、公共のために尽くすことを表す。「多くの人に支えられ、今年で事務所設立11年を迎えました。これからも義の心で、建築士の立場から社会に貢献していきたい」と目を輝かせた。

(我那覇 宗貴)

(有)義空間設計工房 / 電話:098 888 5303 <http://www.gikuukan.com/>

(株)タイムス住宅新聞社・週刊「タイムス住宅新聞」編集部
画像及び文章の無断転載・無断引用・販売などは固くお断りします。
Unauthorized redistribution of my data is strictly prohibited
